



ぐんまの消防

表紙写真 太田市消防本部庁舎及び訓練風景

地域住民の安心・安全のために



群馬県のマスコット
「ぐんまちゃん」
許諾第26-191436

第 **35** 号
平成28年度発行

団長の熱き思い

消防団の将来を見据えて



伊勢崎市消防団 団長 矢内 豊

必要不可欠な存在となっています。

伊勢崎市は赤城山麓の南面に位置し、北部に一部丘陵地があるほか、南部には利根川が流れ、全体はほぼ平坦地となっています。

現在、伊勢崎市消防団は七〇四人、五方面隊、四十五個分団で構成され、市民の安全安心のため常日頃から災害に備えております。

昨年の平成二十七年五月十六日に、第六十四回利根川水系連合・総合水防演習が伊勢崎市境島村地内で実施されました。この水防演習は十年ぶりに伊勢崎市での開催となり、団員達はさまざまな水防工法を行い、いつ起こるかわからない災害に対応できるよう訓練を行いました。伊勢崎市は南側に日本一の流域面積を誇る利根川が流れています。大雨により増水して氾濫した場合、甚大な被害が予想されます。そのような事態に備え、団員達は日々訓練を行い、有事の際には

しかし、その消防団員も毎年減少傾向にあります。若年層人口の減少や就業者における被雇用者が占める割合の増加など、以前から入団対象となっていた層から入団者を確保することが難しくなっています。また、消防団には「上下関係や訓練が厳しい」「アルバイトの時間がない」「などのイメージがあり、消防団員確保の困難、消防団員の減少につながっていると感じます。年々、社会環境は変化してきており、その変化に対応していく必要があります。

消防団が地域防災の中核的存在として、不可欠な存在であることは今も昔も変わりありません。就業構造や個人のライフスタイル、価値観の尊重に配慮しながら、地縁による消防団員の確保に加えて、入団促進の充実や活動環境の整備を行うことで、消防団員の若返りや多様な人材を増やしていければと考えております。

今後、伊勢崎市をもっと元気に、もっと豊かに、そしてもっと安全にというスローガンのもと、安心安全な街づくりに貢献できるよう、一致団結して活動して参ります。

平成二十八年度表彰

長年にわたり消防業務の御功績により叙勲及び表彰された方々を紹介いたします。

瑞宝双光章(秋)

元群馬地区消防組合消防団板橋防団団長 小野田 榮
元高崎市消防団副団長 平崎 良一

瑞宝単光章(春・秋)

元高崎市消防団副団長 浅野 宗一
元上野村消防団副団長 黒澤 典久
元榛名町消防団副団長 後閑 英雄
元みどり市消防団副団長 松崎 弘
元中之条町消防団副団長 相田 英男
元前橋市消防団副団長 井口 雅夫
元安中市消防団副団長 須貝 一夫
元高崎市消防団副団長 野村 高久

藍綬褒章(春・秋)

元高崎市消防団副団長 五十嵐 光春
群馬地区消防組合消防団館林消防団副団長 野村 政美
館林地区消防組合消防団富原消防団副団長 大塚 栄彦
高崎市消防団副団長 深澤 正秀

群馬県功労者表彰

渋川市消防団副団長 桑原 良雄
伊勢崎市消防団副団長 矢内 豊

群馬県総合表彰

下仁田町消防団副団長 神戸 淳
元南牧村消防団副団長 小金澤 耕二
草津町消防団副団長 直井 新吾
上野村消防団副団長 松元 平吉

前橋市消防団副団長 久家 邦夫
渋川市消防団副団長 桑原 昌浩
嬭恋消防団副団長 黒岩 敏行
高崎市消防団副団長 小林 浩二
元沼田市消防団副団長 蘭田 圭一
元富岡市消防団副団長 高橋 栄一
桐生市消防団副団長 根岸 佐年
高崎市消防団副団長 野尻 重雄

消防協会定例表彰

「表彰者総数 三三三三名 五団体」
「無火災表彰」
高崎市消防団南部方面隊第七分団 一年
玉村町消防団第八分団 三年
伊勢崎市消防団境方面隊第一分団 四年
みどり市消防団第十一分団 一〇年
川場村消防団第八分団 一〇年

☆功労章

☆永年勤続功労章 一五六名(四三名)
☆精績賞 三五二名(四八名)
☆精勤賞 四八八名

☆功績賞

五年勤続 五五五名
一〇年勤続 五二〇名
一五年勤続 四三九名
二〇年勤続 二四四名(二五五名)
二五年勤続 一〇六名(一七七名)
三〇年勤続 四九名(一五五名)
三五年勤続 五七名(二二名)
四〇年勤続 三三三名(二五五名)

☆永年勤続退職者表彰四一三名(七六名)
三代伝承等 一一一
()内は消防職員数

消防団紹介

消防団員募集

問い合わせ：各市町村役場へ



玉村町消防団

玉村町消防団は、団員数一五五名（定員一五五名）、十個の分団、十台の消防ポンプ車を所有し、消火活動・風水害や地震の際の防災活動・行方不明者の捜索・消火訓練・消防技術訓練・火災予防運動・消防水ポイント検・歳末特別警戒・秋季消防点検における訓練成果の披露等、地域の安全・安心のために、日々活動しております。

玉村町消防団は、団員数の充足率が百パーセントですが、毎年新入団員を確保するのは容易なことではなく、他の消防団同様、その確保が大きな課題となっております。そこで、若い世代の消防団認知度の向上をはかるために、平成二十七年一月より、玉村町成人式において、消防団PRコーナーを設け、消防団活動の写真や、団員入団促進ポスターの掲示、団員による記念品の配布を行い、新成人に対して、消防団のアピールを行っております。

また、新成人の消防団に対する認知度・意識等を調査し、消防団の認知度向上や、新入団員の確保を図るために、新成人に対して、消防団員に関するアンケート調査を実施、結果を集計し、消防団活動に生かしております。

我が玉村町は、北に利根川、南に烏川という二つの川に挟まれた地形により、古くから水害に悩まされてきた歴史があります。去年の関東・東北豪雨災害や、今年の相次ぐ台風による被害等がありま



すが、玉村町でも、昭和二十二年に利根川が氾濫し大きな被害を受けた過去があります。

毎年、区や町の防災・水防訓練に積極的に参加するなど、最低限の備えはしているものの、今後地域や町と連携・協力し、一層の防災力の向上に努めるとともに、これまで以上に高い意識を持つて臨まなくてはいけないと日々感じております。

玉村町消防団が昭和二十二年に発足して以来、七十年が経過します。先人たちが築いてきた伝統や消防団の道のりを振り返り、玉村町消防団がこれからも発展すべく決意を新たに日々精進していきたいと思っております。

太田市消防団

太田市消防団の管轄する太田市は、県の南東部、渡良瀬川と利根川で近県と接した、ほぼ平坦な地域で、団員数は、六二三名（定員七〇〇名）で女性団員も一八名活躍しています。

工業製品出荷額は県下トップクラスでありながら、「小玉すいか」や、「やまといも」など、農業特産品も多い、産業のバランスがとれた街です。

他の地域と同様、団員の勤務先も製造業を中心にサラリーマンが多く、日中の出勤態勢や勤務先の協力に課題もありますが、職場内での同僚団員の紹介をきっかけに入団する方も多くいます。

消防団の活動ですが、消火・防災活動はもちろん、ポンプ操法訓練にも力を入れており、県大会では、平成二十六年の前回は二位入賞、平成二十八年の今回は三位、四位に入賞の分団を輩し、好成績を上げています。

また、団員が作った「ミニ消防車」を二台保有しており、行事、各種イベントでの乗車体験には長蛇の列が出来、子供達に大人気で、消防団のイメージアップや広報に大きく貢献しています。

次に、女性団員の活動ですが、女性団員もポンプ操法大会に一番員として出場し、市大会を勝ち抜き、支部大会にまで出場しました。他にも消防団指揮車による広報活動、学童クラブなどでの「防火紙芝居」の読み聞かせ、イベント



での団員募集活動など活躍をしています。

太田市は、多くの工業団地を抱え、過去には工場の大規模な火災が発生し、長時間の危険な活動をしなければならぬ状況になることもありました。これらの経験を踏まえ、消防車両の更新をはじめ、救助資機材の導入や団員用防塵マスクなど安全対策個人装備の充実にも努力をしているところです。

消防団は、自分たちの地域は自分たちで守るという郷土愛を団結の支柱にしていますが、製造業の多い太田市では、市外出身の方も市内企業に勤務している縁で、多く入団されています。消防団活動を通じ新しい地域の絆が生まれ、市の安全・安心が更に高まっていくことを期待しています。

『伊勢崎市消防本部の取り組み』

伊勢崎市消防本部が市との共催で取り組んでいる訓練を二つ紹介します。

消防は災害が起きたら被災者を救出し、医療機関に搬送しますが、そのような災害活動の中で培った知識をもっと活かすべく、昨年度から行っている事業です。

まずは、大きな地図を囲み、町の構造や自然条件、地域資源などを書き込むDIG (Disaster(災害) Imagination(想像力) Game(ゲーム))です。打ち解けた雰囲気でも議論しながら、災害を予測し、災害時にとるべき行動をイメージするうちに、世界に1枚だけの防災マップが完成します。

次に、HUG (H(避難所) U(運営) G(ゲーム))です。これは避難者が抱える様々な事情が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図に適切に配置していくゲームです。

あなたなら愛犬を連れて避難してきた人がいたらどうしますか？外国籍の人や怪我人が次々にやってきましたら…

それぞれの訓練は行政区単位で約三十人の方に公民館等が集まっていただき、三時間で行っています。わずか三時間ですが、実際に災害を目にしたことのある消防職員と一緒に考えることで、災害をイメージしやすくなります。そしてなにより、近隣住民の絆が深まり、消防職員と顔の見える関係を築くことにも繋がります。

り、「身近に潜んでいる危険を再認識できた。」と近所さんと考え方を共有できたと。」と大変好評をいただいております。

訓練を通じ、今後さらに自助・共助・公助の連携が強化され、防災ネットワークが拡大していくことを願っています。



『第十二回群馬県災害医療研修(急性期)』

十月一日(土)、二日(日)前橋赤十字病院及び群馬県消防学校において『第十三回群馬県災害医療研修(急性期)』が実施されました。

この研修は、想定実践訓練を通して群馬DMAT等と消防機関、警察機関等関係機関との連携を習得することを目的としています。

今回の研修では、県内十一消防本部(局)職員五十六名、医療関係者四十二名、警察職員十二名が参加し、災害医療に関する座学をはじめ、災害急性期(発生後四十八時間以内)における医療情報の収

集及び伝達、トリアージ並びに応急治療や搬送など、大事故発生から病院収容までを想定した実践的な訓練が行われました。

この研修を通じ、県内関係機関相互の共通認識の統一を図り、実災害時における連携活動能力の向上に努めることができました。



▲ 10月2日：実践訓練の状況



▲ 10月1日：座学の状況

『警防救助部会の活動』 『群馬県消防長会』

群馬県消防長会では、平成二十三年度に群馬県内消防本部の救助隊員の資質向上を目的に「救助部会」を設置し、各種救助技術の研究や検証等を実施してきました。

平成二十七年には、これまでの活動の成果を発表するため「第四十四回消防救助技術関東地区指導会」の「技術訓練」を担当しました。

同年七月からは、本部会に警防部門に関する調査検討を新たに加え、「警防救助部会」に発展変化させ、各種研修会や訓練会等を定期的に実施するとともに、県消防学校の救助科学生へのロープレスキュー指導を担当するなど、災害現場における警防及び救助技術に関する技術向上と情報共有に努めています。



第二十五回全国消防操法大会に出場して

昭和村消防団長 諸田 光二

私たち昭和村消防団は、今回、第二十五回全国消防操法大会ポンプ車の部の群馬県代表として第七分団が出場し、敢闘賞の成績を収めました。また、三番員の石井 康久選手が優秀選手賞を受賞いたしました。この賞は、出場した全ての三番員の中から最優秀者一名が選考される大変名誉ある賞であり、本人の努力はもちろんのこと、選手・団員全員の信頼関係に支えられたチームワークの賜であり、大変うれしく思います。

消防団員は、本業のかたわらボランティアとして、火災時の消火活動はもとより風水害等の発生時においても、地域の安全と安心のために昼夜を問わず尽力しております。その中において、消防ポンプ操法大会に出場する意味とは、日々の訓練を通じて消火活動を迅速かつ安全に行うための技術を養うのはもちろんのこと、こうした訓練の中で団員同士が団結し、組織力を強固にすることも非常に大切であり、結果、消防団の充実強化に繋がるものと思います。昭和村では、毎年開催される消防ポンプ操法地区大会に分団持ち回りで参加するため、各分団は五年に一度出場しております。さらに、

全国大会を目指すチャンスが巡ってくるのは二十年に一度となりますので、分団は与えられたチャンスを最大限に活か

し、操法技術を磨き上げています。今回出場した第七分団は、昨年の九月より大会に向けた訓練を開始しましたが、それ以後、選手や団員は各自の仕事を終えた後、夜遅くに集まって訓練を重ねてきました。地区大会、県大会と勝ち進み、全国大会の切符を手にしたわけですが、地区大会では土のグラウンドで、県大会では芝生の上で、全国大会は人工芝の上で、それぞれ異なったグラウンドコンディションの中で、効率よく操法訓練を行うために、選手やサポートする団員が工夫して臨んでくれました。その一方で、今年の夏から秋にかけては、大会を間近に控えた貴重な訓練が悪天候に見舞われることも多かったのですが、分団長以下、団員が一丸となり、その状況下でできる最善の訓練方法を模索しながら、よく頑張ってくれました。

結びに、今大会までの間、長きにわたる惜しみない協力とご声援をくださった昭和村関係者の方々をはじめ、団員のご家族や、地元の皆様、並びに各分団で応援いただいた分団長、団員、そして副団長、ラッパ長など多くの皆様に心から感謝いたします。また、夜遅くの訓練にもかかわらず来村の上ご指導いただきまし

関係者の皆様、群馬県消防協会の皆様のご支援に対しまして、改めてお礼を申し上げます。
最後になりますが、第七分団の皆様、本当におつかれ様でした。



● 個人表彰(ポンプ車の部)

操作員	消防団名	選手名
指揮者	高崎市消防団箕郷方面隊第3分団	大島 勝真
1番員	みどり市消防団第10分団	深澤 恵介
2番員	沼田市消防団第1分団	田村 将志
3番員	みどり市消防団第10分団	須永 訓夫
4番員	沼田市消防団第1分団	小菅 健吾

● 個人表彰(小型ポンプの部)

操作員	消防団名	選手名
指揮者	上野村消防団第6分団	浅川 大
1番員	昭和村消防団第10分団	林 洋平
2番員	館林消防団第10分団	篠原 一哉
3番員	昭和村消防団第10分団	熊谷 信一

● ポンプ車の部成績(入賞チーム)

順位	消防団名	得点
優勝	昭和村消防団第7分団	187.83
準優勝	沼田市消防団第1分団	180.00
第3位	太田市消防団第10分団	172.67
第4位	太田市消防団第12分団	171.83
第5位	榛東村消防団第4分団	170.67
第6位	桐生市消防団黒保根方面団第3分団	170.33
第7位	みどり市消防団第10分団	170.17

● 小型ポンプの部成績(入賞チーム)

順位	消防団名	得点
優勝	昭和村消防団第10分団	92.33
準優勝	館林消防団第10分団	89.50
第3位	東吾妻町消防団第6分団	88.33

第二十三回 群馬県消防
ポンプ操法競技大会開催

平成二十八年八月二十日(土)

群馬県消防学校

「感謝の気持ちをカードに込めて」

富岡甘楽広域消防本部

皆さんは救急車を要請した経験はありますか？

平成二十七年中の富岡甘楽広域消防本部管内における救急出動件数は二千八百三十六件です。この数を管内の人口数で割ると約二十六人に一人が救急車を要請したことになります。

ですから、救急隊員が救急現場に駆けつけ、応急手当を実施し医療機関へ搬送するという一連の救急活動を見かけたことのある方も少なくないと思います。

富岡甘楽広域消防本部管内で救急車が救急要請から現場に到着するまでの所要時間は約七分四十秒です。この間は傷病者の近くにいる人以下「バイスタンダー」というのが救急隊員の代わりをすることが期待されています。

バイスタンダーの役割としては、傷病者のそばにいて様子をみていただくこと、ケガの手当をしていただくこと、場合によっては胸骨圧迫やAEDを使用する心肺蘇生法を実施していただくことがあるかもしれません。

救急隊は、いち早く傷病者を医療機関に搬送したいため、バイスタンダーが懸命に応急手当を実施していても「ありがたいございました」という僅かな感謝の言葉でその行動のお礼を伝えることが精いっぱいです。

あのかのときの救急事案で応急手当を実施

してくれた人はどうしているかと気にかけてもそれ以上のことが出ないもどかしさもありました。

一般の方にとって応急手当に関するとは、非日常の体験です。そういった体験の後に心的ストレスが生じるのは予想される反応であり、全ての人に多かれ少なかれ何らかの問題が起こりうることは想像にかたくありません。

そのストレスのほとんどは問題なく時間とともに軽減しますが、何らかの特別な対応が必要な人が存在することがわかってきました。

このことを関係者だけでなく社会一般の共通認識にしていく必要があると日本臨床救急医学会から提言がありました。

そこで、富岡甘楽広域消防本部では平成二十七年十月一日から応急手当を行っていたいただいたバイスタンダーに救急隊員からの感謝の気持ちと、バイスタンダーが応急手当を実施したことによって起こる心配事を消防がサポートするための連絡先を伝える「バイスタンダーフォローアップカード」を配布することとなりました。

カードは運転免許証などと同じ大きさで、表面に救急隊が到着するまでの間勇気を持って応急手当に当たっていたことへの感謝の思いが記してあります。

カードの裏面には、連絡先（富岡甘楽広域消防本部警防課の電話番号）と通し番号を記載してあります。

配布を始めてから一年になりますが、相談等の電話は来ておらず、「本当にあの時の行動は正しかったのか」と不安を抱いた人、辛い体験を理解してもらいたい人等の心的ストレスをカード配布によって和らげることができ、心のケアに貢献できているのではないかと考えています。

カードを手にする機会があり、改めてカードを見返す機会があったときに「応急手当をあの時勇気を持って実践してよかった」「改めて救急法、救命講習を受講しよう」「友人や家族、職場の仲間に救急法、救命講習を勧めよう」などと応急手当について思い返していただき、住民が安心して応急手当を行える環境が整い、結果として救命の輪が大きくなることを期待したいと思います。

応急手当を行ってくださった方へ (富岡甘楽広域消防)

救急隊が到着するまでの間、勇気を持って応急手当にあたっていた
だき、ありがとうございました。

* 救急現場において、目撃したこと、応急
手当を行ったことで何か不安なこと等が
ありましたら、裏面の相談窓口にご連絡く
ださい。



相談窓口

富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合
消防本部 警防課 救急救助係
電話番号 0274-62-4333

(平日の8:30から17:15まで)

16-1-1



女性防火クラブ



平成二十八年年度群馬県女性防火クラブ指導者育成研修会について

群馬県女性防火クラブ連絡協議会会長 小俣 浪子

平成二十八年十月二十七日(木)群馬県公社総合ビルにおいて、群馬県女性防火クラブ指導者育成研修会を開催しました。この研修会は、県内の女性防火クラブ員を対象に防火・防災に関する専門知識の習得や士気高揚を目的として、毎年開催しているものです。

今年度も一般財団法人日本防火・防災協会と群馬県との共催により開催され、県内各地から総勢約二〇〇人の女性防火クラブ員が参加し、盛況を博しました。

開会挨拶に続き、『住宅用火災警報器の普及啓発について』と題し、群馬県総務部消防保安課の林克彦主任から近年の住宅火災の実態や住宅用火災警報器の重要性について、丁寧な講演をいただきました。住宅用火災警報器の普及啓発は、多くのクラブで課題となっていることから、熱心にメモを取るクラブ員も多く見られました。

続いて、『大人向け防犯出前講座』今日からできる身近な防犯対策』と題して、群馬県生活文化スポーツ部の月岡大樹主任にお話をいただきました。日々の生活に密接に関係する身近な内容であったことから、会場からは真剣な視線

が注がれていました。

研修は長時間に及びましたが、参会の皆様は御協力により大変有意義なものとなりました。

私たち女性防火クラブ員は、「家庭から火災を出さない」をスローガンに、防火思想の普及啓発のため、今後も活動を行って参りますので、皆様の引き続きの御協力をお願い申し上げます。



土砂災害を目の当たりにして

利根沼田婦人防火クラブ連絡協議会理事 桑原けい子

平成十年八月二十七日。私にとって忘れる事の出来ない日となりました。というのも、「ここは台風の被害も少なく、地盤が固いから地震にも強いし、住むのいい所なんだよ。」というのが、先輩達が口々に自慢する言葉でした。しかし、その言葉が通用しなくなったのがこの日です。災害がないといわれていた当地に土砂災害が起き、一軒の家が被災することになったのです。

前年の冬はというと、記憶にない暖冬で雪下ろしをする事もなく、少雪の為にスキー場も営業が殆ど出来ない位でした。雪が少なく除雪もしなくて済む冬がとても楽であったことは、偽らざる本心でした。

しかし、そのつけとこののでしょうか、梅雨明けはとも遅く、明けてもまた長雨が続き、殆ど夏らしい日がないまま、当日になりました。昼頃からは、今迄にない降り方に不安を覚えていると、夕方には利根川、さらには、そこに流れ込む沢の水嵩と水の色は危険を感じるものになりました。

そんな時、「なかつ沢」と呼ばれている沢が上流から壊れ、土砂と立木がそのまま流されて来る状況が起きていました。両側に有った二軒が被災し、一軒目は平屋でしたが、天井に届く程の土砂が堆積したのです。その家に取り残された

身体の不自由な七十代の女性は巡回中の消防団員、東電職員の方に助けられ、無事でした。もう一軒は、たまたま私も居合わせ「畳を上げた方がいいね。」と言い、2・3枚持ち上げた瞬間、窓を破り一気に水が入ってきました。もう我先に逃げしか有りませんでした。本当に水の速さ、怖さは物凄いものでした。幸いにも、こちらのお宅にも老人が居ましたが、先に避難していた為、皆無事でした。犠牲者が出なかったことが一番良かった事だと思いました。

その夜から停電・断水の中、避難場所である会館で、区長さんをリーダーに区の役員、消防団、そして婦人会とそれぞれに協力し、ほぼ一週間被害宅の片付け、自家水道の有る家から水運びをしての食事作り等々、材料もストックしてある乾物や野菜等を持ち寄ったものでした。

最近も大雨や地震等で被災されているニュースをよく目にします。明日は我が身です。何もなく平穏な明日が来るとは限りません。他人事とは思わず、「他人に有ることは自分にも有ります。」今から自分の出来る備えをし、又自分のできる協力を惜みず、いつ起こるか分からない災害に慌てることのないようにしていけたらと思っています。

群馬県消防協会 支部一覧

支部名	所在地	電話番号
前 橋	〒371-0014 前橋市朝日町4-22-2 前橋市消防局総務課内	027-220-4504
高崎市等広域	〒370-0861 高崎市八千代町1-13-10 高崎市等広域消防局総務課内	027-322-2393
桐 生 広 域	〒376-0027 桐生市元宿町13-38 桐生市消防本部総務課内	0277-47-1701
伊 勢 崎 佐 波	〒372-0031 伊勢崎市今泉町2-895 伊勢崎市消防本部総務課内	0270-25-3511
太 田	〒373-0063 太田市鳥山下町409-1 太田市消防本部消防総務課内	0276-33-0200
利 根 沼 田	〒378-0056 沼田市高橋場町2049-1 利根沼田広域消防本部警防課内	0278-22-3139
館 林	〒374-0039 館林市美園町7-3 館林地区消防組合消防本部警防課内	0276-72-8361
渋 川	〒377-0008 渋川市渋川1815-51 渋川広域消防本部総務課内	0279-25-4191
多 野 藤 岡	〒375-0024 藤岡市藤岡982 多野藤岡広域消防本部警防課内	0274-22-2306
富 岡 甘 楽	〒370-2316 富岡市富岡1922-7 富岡甘楽広域消防本部警防課内	0274-62-4333
吾 妻	〒377-0801 吾妻郡東吾妻町大字原町35 吾妻広域消防本部警防課内	0279-68-0217

県内の消防の現況 (平成28年10月1日現在)

消防団員数	11,780人	(前年比 94人減)
男性	11,683人	(前年比 103人減)
女性	97人	(前年比 9人増)
消防職員数	2,536人	(前年比 12人増)

消防団員募集

問い合わせ：各市町村役場へ



平成28年度全国統一防火標語

「消しましょう その火その時 その場所で」

発行所 公益財団法人 群馬県消防協会
前橋市大手町一丁目1番1号
群馬県総務部消防保安課内
TEL 027-220-1338
URL <http://www.gunma-syoubou.jp/>

編集発行人 公益財団法人 群馬県消防協会
常任理事 小 見 洋

印刷所 朝日印刷工業株式会社

編集後記

平成28年は、4月に熊本地方を襲った震度7の地震により大きな被害が発生し、今もなお多数の方が不自由な生活を余儀なくされています。

この震災においては、自らも被災しながら発災直後から延べ6万人を超える地元の消防団員の方々が、昼夜を分かたず身を挺して災害活動に当たり、多くの住民を救出したことは、報道でも大きく取り上げられ注目を集めました。

消防団が、制度発足以来地域における消防活動、火災予防はもとより、大規模災害時の救助、救護など地域防災の中核として、献身的に活動を行っていることに対し、改めまして敬意を表するとともに感謝を申し上げます。